

(・ 小 論 文) 出 題 意 図

法学部 法学科 夜間主コース

○ 試験の種別

- ・ 社会人選抜

SDG s における17の目標	10. 人や国の不平等をなくそう
問題 1 本問は、2000年代以降の日本の代表制民主政治のあり方をテーマとした文章（谷口将紀『現代日本の代表制民主政治：有権者と政治家』（東京大学出版会、2020年））を題材に、著者の主張を把握させ、著者が指摘する日本の代表制民主政治の規範的な問題について考察させることを趣旨とする問題である。この設問により、法学・政治学を学ぶうえで特に必要な思考力、判断力、表現力をはかることを意図している。 問 1 は、著者の主張とその論拠を正しく理解し、それを明確に説明できるかを問うている。著者は、現代日本の政党政治に見られる有権者と代表の乖離が、さまざまな代表理論によっては正当化されない点を詳細に説明している。このような説明をいかに適切に組み合わせ、簡潔に整理・統合するか、受験者の判断力・表現力をはかる。 問 2 は、多様な代表観（予測的代表観と古典的な約束的代表観の違い）を理解したうえで、予測的代表観の立場から、状況を分析し、自分の見解を適切な理由づけとともに、論理的に展開できるか、思考力・表現力を問う。	

SDG s における17の目標	10. 人や国の不平等をなくそう
問題 2 本問題はアメリカにおけるアファーマティブ・アクション（以下、「AA」と略称する）の成立と展開について論じた最近の著作である南川文里『アファーマティブ・アクション』（中央公論新社、2024年）を題材に、AAのあり方の転機となった判決として知られるバッキ判決の内容と意義を考察させるものである。同判決は平等原則のあり方をめぐって日本の憲法学でもしばしば取り上げられる素材であるが本問題は専門的な知識を要するものではない。 問 1 は文献を読解して得られた知見を正確にアウトプットするという法学・政治学を学ぶうえで不可欠の判断力・表現力を問うものである。 問 2 では拠って立つ立場をあえてAA反対派と指定し、前提となる立場から自身の見解を論理的に組み立ててさらに議論を発展させる思考力・表現力を問うことを主眼としている。	